



2022年3月期
中間決算説明資料

証券コード:5217



テイクコーポ株式会社

1. 2022年3月期中間決算
2. 2022年3月期業績予想
3. 半導体市場予測
4. トピックス
5. 新型コロナウイルス感染症対策



1. 2022年3月期中間決算

(1) 経営成績(連結)

(単位:百万円)

	2021年3月期中間 (第45期上期)		2022年3月期中間 (第46期上期)	
売上高	6,195	38.3%	7,599	22.7%
営業利益	1,275	73.5%	1,548	21.4%
経常利益	1,277	65.0%	1,507	18.0%
純利益	877	58.4%	1,019	16.3%

注)%表示は対前年同期比増減率

(2) 経営成績(単体)

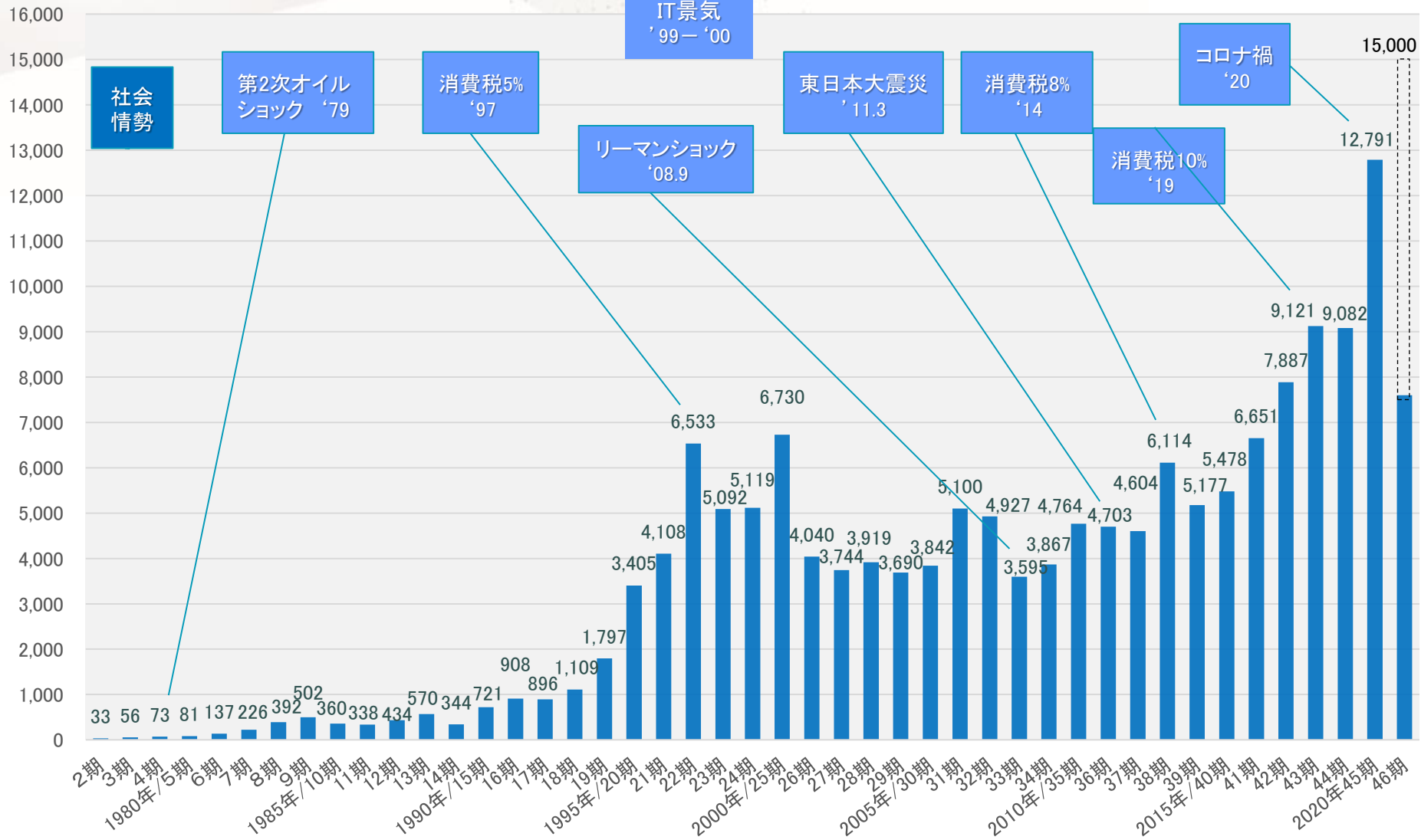
(単位:百万円)

	2021年3月期中間 (第45期上期)		2022年3月期中間 (第46期上期)	
売上高	5,605	41.0%	6,737	20.2%
営業利益	881	72.2%	1,128	28.1%
経常利益	901	43.5%	1,203	33.5%
純利益	620	31.8%	831	34.0%

注)%表示は対前年同期比増減率

(3) 売上推移(連結)

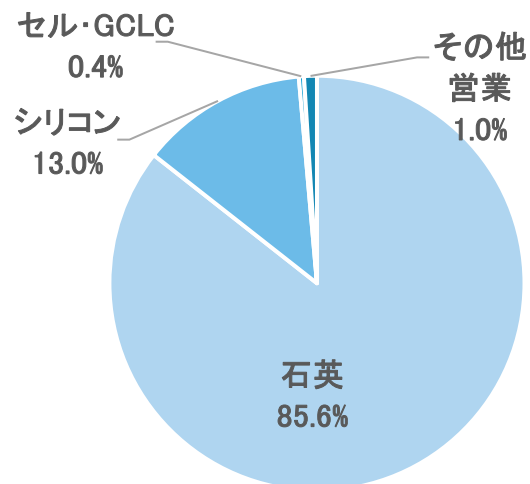
(単位:百万円)



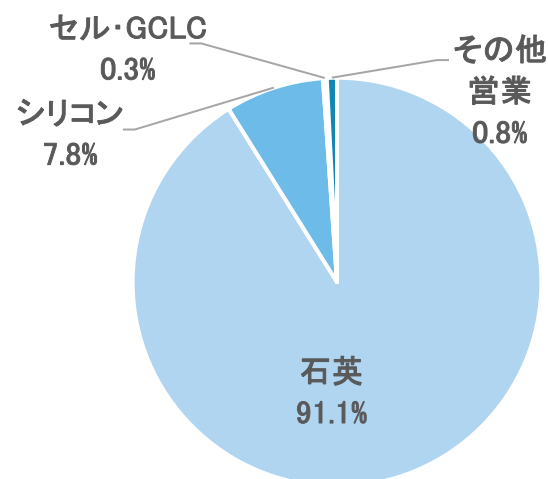
(4) 製品別売上高

(単位:百万円)

主要製品	2021年3月期中間 (第45期上期)			2022年3月期中間 (第46期上期)		
	売上高	構成比	増減率	売上高	構成比	増減率
石英	5,305	85.6%	37.5%	6,919	91.1%	30.4%
シリコン	805	13.0%	60.8%	595	7.8%	△26.1%
理化学機器 セル、GCLC	21	0.4%	△28.7%	25	0.3%	17.5%
その他営業	62	1.0%	△30.3%	58	0.8%	△6.5%
総計	6,195	100.0%	38.3%	7,599	100.0%	22.7%



2021年3月期中間



2022年3月期中間

2. 2022年3月期業績予想

2022年3月期(第46期通期)業績予想(連結)

(単位:百万円)

	2021年3月期実績 (第45期通期)		2022年3月期予想 (第46期通期)	
売上高	12,791	40.8%	15,000	17.3%
営業利益	2,446	72.4%	2,800	14.5%
経常利益	2,368	60.0%	2,760	16.5%
純利益	1,606	61.8%	1,940	20.8%

※2021年9月期決算短信の公表値

注)%表示は対前年同期比増減率

3. 半導体市場予測

(1) 売上ランキング

2020年半導体メーカー売上ランキング

2020	2019	企業名	国名	売上高 (百万ドル)
1	1	インテル		73,894
2	2	サムスン エレクトロニクス		60,482
3	3	TSMC		45,420
4	4	SK Hynix		26,470
5	5	マイクロンテクノロジー		21,659
6	7	クアルコム		19,374
7	6	ブロードコム		17,066
8	10	Nvidia		15,884
9	8	TI		13,088
10	9	インフィニオン		11,069

資料: IC Insights

2022年3月期(第2四半期)決算説明資料

2020年半導体装置メーカー売上ランキング

2020	2019	企業名	国名	売上高 (百万ドル)
1	1	アプライド マテリアルズ		16,365
2	2	ASML		15,396
3	4	ラムリサーチ		11,929
4	3	東京エレクトロン		11,321
5	5	KLAテンコール		5,443
6	6	アドバンテスト		2,531
7	7	スクリーン		2,331
8	8	Teradyne		2,259
9	10	日立ハイテク		1,717
10	13	ASMI		1,516

資料: VLSI Research

(2) 世界の地域別半導体市場規模

(単位:億米ドル)

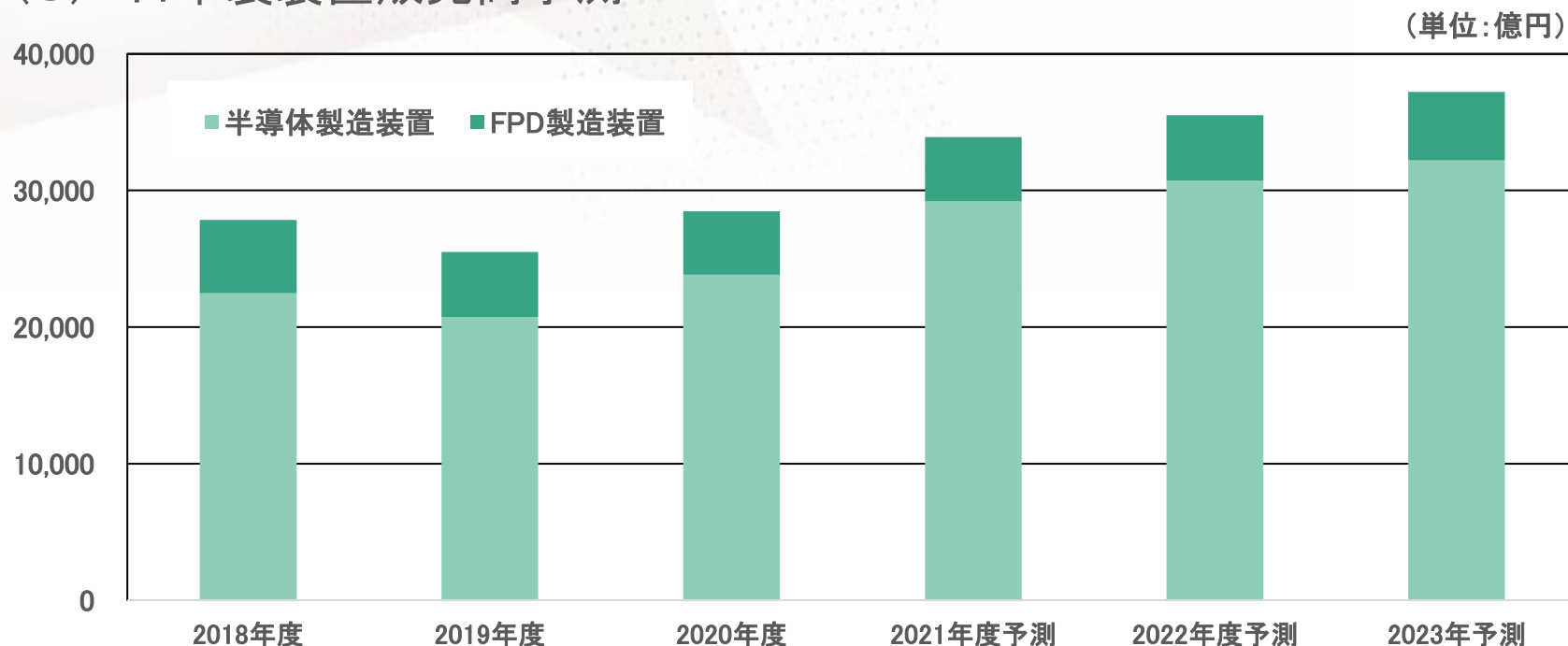
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
米州	693	687	655	884	1,029	786	953	1,059	1,163
欧州	374	342	327	383	429	398	375	454	483
A/P	1,942	2,010	2,083	2,488	2,828	2,578	2,710	3,347	3,654
日本	348	311	322	365	399	359	364	410	433
合計	3,358	3,351	3,389	4,122	4,687	4,123	4,403	5,272	5,734
前年比	109.9%	99.8%	101.1%	121.6%	113.7%	88.0%	106.8%	119.7%	108.8%

※「A/P」とはアジア太平洋の略

資料:WSTS 2021年春季半導体市場予測

※上記WSTS予測は、世界経済、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや天変地異などの不確定要因により実際の実績が記載の予測と大きく異なる可能性があります。

(3) 日本製装置販売高予測



資料: SEAJ

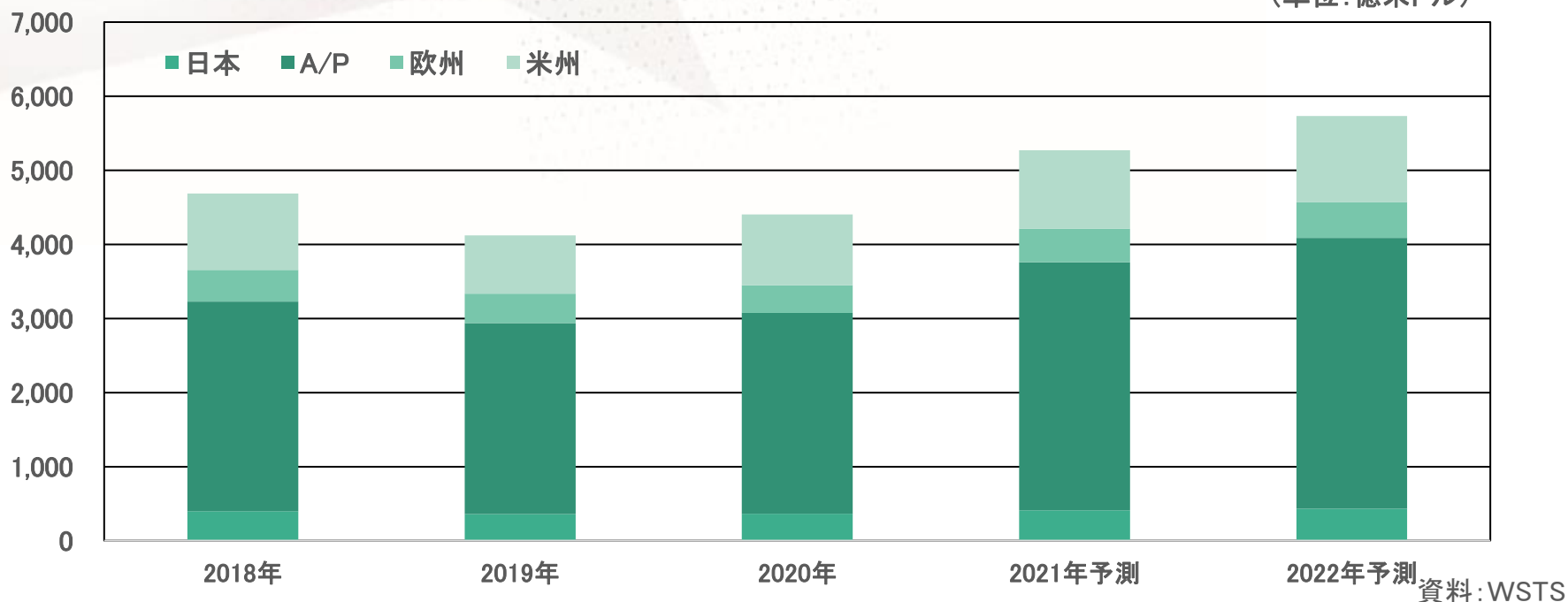
日本製製造装置販売高について

- ◆ 2021年度は、ロジック・ファウンドリーの積極投資に加え、メモリ全般で高水準の投資が増加したことから、半導体製造装置が前年度比22.5%増、FPD製造装置が1.3%増、全体で19.1%増の3兆3,900億円となる見通しです。
- ◆ 2022年度は、ロジック・ファウンドリーを中心に投資水準が維持されると予想し、半導体製造装置が前年度比5.1%増、FPD製造装置が2.1%増、全体で4.7%増の3兆5,500億円と予測します。
- ◆ 2023年度は、半導体製造装置が前年度比4.9%増、FPD製造装置が4.2%増、全体で4.8%増の3兆7,200億円と予測します。

※「FPD」とはフラットパネルディスプレイの略

(4) 世界地域別半導体市場予測

(単位:億米ドル)



世界半導体市場について

- ◆ 2020年は、世界経済が新型コロナウイルスのパンデミックの影響で低迷した一方、半導体市場は、在宅で過ごす時間が増えたことによるパソコンやタブレット端末の需要が高まり、また、5Gスマホの比率上昇、これらの影響でインターネット上のデータ通信量が飛躍的に増大し、インフラ設備投資需要も高まったことにより、前年比6.8%増となりました。
- ◆ 2021年は、世界経済が緩やかに回復に向かっていることに加え、前年に半導体市場を牽引した要因の多くが継続していることから、前年比19.7%増を予測します。
- ◆ 2022年は、足元の非常に強い半導体需要が急速に弱まる要因が見つげづらことから、前年比8.8%増と成長が継続するものと予測します。

4. トピックス

(1) グループ会社の連携

ジーエルサイエンスグループ

分析機器事業

ジーエルサイエンス
株式会社



主力事業であるクロマトグラフィーは、物質を分離して検出する化学分析手法の一つです。環境中の化学物質や、食品中の農薬などの規制、医薬品開発、製造業における品質管理など、様々な分野で使用されています。50年以上にわたって、分析機器および関連する消耗品の提供を通じて社会に貢献しています。

半導体事業

テクノクォーツ
株式会社



主に半導体、液晶製造装置関連および理化学機器で使用する消耗品となる高精度石英ガラス、結晶シリコン材からなる精密加工部品の製造および販売が主力事業です。高度な品質要求の分野で培われた技術と経験を基に、世界中のお客様にパーツを提供しています。

自動認識事業

ジーエルソリューションズ
株式会社



非接触型ICカードのリーダーおよびライターを中心とした製品開発と販売が主力事業です。非接触ICカードは国際的に普及しており、今後日本においても、磁気カードに代わり普及すると予想され、成長が期待される分野です。

(2) 中国第3工場(2021年11月竣工)

- ・現在の中国第1工場・第2工場の隣接地に、総額約27億円で第3工場を建設。
- ・最大60台の機械設備設置が可能であり、最大約25億円/年の増産規模となります。



(3) ESG経営への取り組み

中期経営計画の主な戦略「④経営基盤強化」の中でも触れておりますとおり、当社では、ESG「(環境: Environment)、(社会: Social)、(企業統治: Governance)」を経営に取り入れ、企業価値の向上を目指しています。

- ・「環境」につきましては、政府が掲げる「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて、低炭素・循環型社会への転換に貢献すべく、国内・海外(中国)の当社工場において、極力環境に配慮した製造工法を模索するとともに、廃棄物の削減や分別に鋭意取り組んでおります。
- ・「社会」につきましては、半導体事業を通じて世界中の人々に便利で豊かな暮らしを提供することで社会貢献するとともに、企業活動を通じて適正な配当・納税を行うことで、広く株主・社会に利益を還元し、上場企業としての社会的責任を果たして参ります。
- ・「企業統治」につきましては、取締役8名中3名を独立且つ社外取締役とすることで経営の客観性を担保するとともに、2022年4月の東証市場再編(当社はジャスダック市場からスタンダード市場に移行予定)を前提に、コーポレートガバナンスコード全83項目の適用を視野に入れたガバナンス体制の構築に向けて取り組んでおります。



(4) SDGsへの対応

当社の主な事業領域である“半導体事業は”SDGsの目標を達成するために欠かせない要素技術です。長年の経験と確かな技術を元に、半導体製造装置に欠かせない画期的な製品を開発し、半導体製造装置メーカーへの販売、サポート活動を通じて、様々な環境問題や社会課題の解決に貢献していきます。



5. 新型コロナウイルス感染症対策

(1) 弊社の対応

日々変化する状況に応じて、お客様、従業員およびその家族の安全確保・感染予防、感染拡大防止を最優先とする方針のもと、事業継続に向けた対応を随時実施しております。

現在、お客様に対しましては、各種オンラインシステムを活用した商談や営業活動を行っております。新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めつつ、お客様からのご注文への対応、商品出荷対応等は、通常通り実施しております。

また、社内におきましては、従業員に対し、在宅勤務および時差出勤の導入、出張の制限等を行っているほか、事業部門ごとに事業の継続に向けたコンティンジェンシープランを策定しております。

(2) 事業面の影響

半導体業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、テレワークや巣ごもり需要の増大でデータ量が増加し、半導体を大量に費消するデータセンター等のインフラ需要が急激に拡大しています。

今回のコロナショックを契機に、世界中の人々の行動様式は変化を迫られ、働き方、購買行動、教育・医療等には大きな変革が求められています。このような新しい行動様式の下では、5GやAI、IoT、自動運転等の需要がますます高まると見込まれ、今後も半導体需要は確実に拡大していくと思われれます。



テクノオーツ株式会社

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2
ハーモニータワー

TEL: 03-5354-8171

FAX: 03-5354-8191

<https://www.techno-q.com/>

【免責事項】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があることをご了承ください。